

意欲的に伝え合い、学びを深める児童の育成

十日町市立下条小学校

1 研究主題

「意欲的に伝え合い、学びを深める児童の育成」

2 研究主題設定の理由

昨年度は、各教科の指導において、ペアやグループによる話し合いを多く取り入れた。また、週1回の「ペアトーク」和様々な活動場面における感想発表を実施した。それらにより、話したり聞いたりすることを楽しいと感じている児童や、意欲をもって自分の考えを進んで話そうとする児童が多くなった。

授業研究を通し、「書く」「話す」「聞く」活動をつなげることにより、児童の考えが明確になることが確かめられた。

しかし、相手の考えを聞く力はまだ十分ではなく、伝え合いを通して自分の考えをより深めることには至っていない。

そこで、「話したい」「聞きたい」という気持ちを大事にしなが和、「書く・話す・聞く」を連動させた授業を展開し、より児童の学びを深めるにはどうしたらよいか考えていく。

3 学習指導改善調査事業との関連

学習指導改善調査の結果から、以下のような力を育てていく必要性が明らかになった。

- ・資料から必要な情報を見付け、それを基に自分の考えを記述すること
- ・問題解決の過程や理由を適切な言葉を用いて説明すること

4 目指す児童の姿

| | |
|------|------------------------------------|
| 低学年部 | 大事なことをしっかりと聞き、自分の考えをはっきり話す子 |
| 中学年部 | 自分と相手の考えの違いに注意して聞き、自分の考えを分かりやすく話す子 |
| 高学年部 | 相手の意図をとらえながら聞き、自分の考えを明確にして話す子 |

5 研究内容と方法

(1) ペアやグループ、学級全体による「伝え合い」の活動を意図的に取り入れ、考えを深める授業を日常的に展開する。

「話したい（意見を言いたい）」「聞きたい」「質問したい」「疑問を解決させたい」などの意欲を高める課題を設定し、できたことや分かったことを認め、「分かる」「できる」喜びを感じることでできる授業を構想する。

(2) 国語・社会・算数・理科の4教科から研究教科を決め、授業研究を行う。各学期に重点単元を設定し、学年部の目指す姿を達成するための手だてを工夫し、実践する。

手だてとして、「書く・話す・聞く」を連動させた授業を構想するので、「伝え合いの方法や場、形態」「考えを書く場や方法（ノート指導も含める）」などを提案する。そして、そこにおける教師の指導や支援の仕方を協議し、検証していく。

6 学習指導を支える学力向上の取組

(1)「話すこと・聞くこと評価シート」の活用

各学年部の目指す姿の達成のために設定した技能評価項目や規準に基づき、指導する。年間2回、意欲と技能について評価し、変容をみとり、指導に活かす。

(2)ペアトーキングの継続

毎週1回、月曜日の朝活動時に2人組になり、教師や児童が考えたテーマについて、互いに話をする。各学年部で設定した時間いっぱい話すことを目標とする。また、指名された児童が、全体に、友達から聞いた話を再現し、聞く力を高める。

(3)Web問題の活用

過去問題を活用して復習し、理解を深めた上で診断問題に取り組む。診断問題結果から未定着な問題を授業で取り上げ、定着を図る。

(4)カードを活用した音読・家庭学習の継続

各学年でカードを作成し、年間を通し、音読と家庭学習に取り組ませる。

7 本年度の成果と次年度への課題

(1)授業研究

①各学年の公開した授業実践より

| 学年 | 教科 | 単元名 | 主な手だて | 成果 |
|--------|----|-----------|---|--|
| 特別支援学級 | 生活 | サツマイモを売ろう | <ul style="list-style-type: none"> 思考の手がかりとなる写真提示 話し方の掲示 吹き出しによる意見の掲示 | <ul style="list-style-type: none"> 複数の写真や教師のモデリングから、自分たちに必要な工夫に気づき、言葉で表現できた。 発言を吹き出しに書いて掲示したことで、話すことの意欲が高まった。視覚的にも理解しやすかった。 |
| 1 | 国語 | わたしのはっけん | <ul style="list-style-type: none"> ポイントへの番号や色付け ペアによる鉛筆を持った伝え合い 挙手や記述による振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 児童が観察して書いた内容の抽象的な表現を教師との対話により具体化させたり、問いに対する返答を書き留めてやったりする支援により、観点に沿ったよく分かる作文を全員が書け、自信をもって伝え合いができた。 鉛筆の跡を目で見たり、言葉でよさを伝えて |

| | | | | |
|---|----|-----------------|--|--|
| | | | | もらったりしたことで、「書いてよかった」という思いを味わえた。 |
| 2 | 算数 | ひき算の ひっ算 | <ul style="list-style-type: none"> ・「司会カード」を活用したグループによる話し合い ・一番やりやすいと感じた友達の紹介 ・振り返りのあるノートづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・「司会カード」の活用により、どの児童も話し合いの司会ができた。慣れるにつれ、カードがなくても司会をすることができるようになってきた。 ・「一の位」「十の位」「繰り下がり」などの言葉を用いて、手順に沿って計算の仕方を多くの児童が言ったり書いたりできた。 |
| 3 | 理科 | チョウを 育てよう | <ul style="list-style-type: none"> ・観察体験を基にした話し合い ・観察意欲を喚起するノートづくり ・思考に沿った発問の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・実物の観察を重ね、前の観察と比較する視点の指示により、観察したことを基に比較して考察する児童が多くいた。 ・友達の考えにつなげて発言する姿が見られた。 |
| 4 | 国語 | 問題を解決するために話し合おう | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いカードの活用と形態の工夫 ・考えを表すメモ ・話し方と聞き方マスターカードの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いカードにより、どの児童も司会ができた。繰り返すうちにカードがなくてもできるようになり、話し合いが楽しいと感じる児童が増えた。 ・メモを基に話すだけでなく、相手の話を正しく聞き取ろうとメモをとる姿が増えた。 |
| 5 | 算数 | 分数のかけ算とわり算 | <ul style="list-style-type: none"> ・メモを基にした話し合い ・「ペア、グループ→全体」という段階的な話し合い | <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに解決の過程を書くことができた。書いたものがあることで、それを見ながら話せるので自信をもって話す姿が多く見られた。 ・自分の考えが十分にもてない時に、ペアやグループで話し合うことで、解決の手がかりを得ることができた。 |
| 6 | 社会 | 武士の世の中 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料を活用した話し合い ・「ペア、グループ→全体」という段階的な話し合い ・学習内容の定着と自分の考えを深めるノートづくり | <ul style="list-style-type: none"> ・課題に合った資料を見付け、考えをまとめる活動を繰り返すことで、資料を読み取る楽しさを味わい、一生懸命に資料を探し考えをもととする様子が多く見られた。 ・分かったことを自分の言葉で書くことを重ねたことで、押さえるべき内容をしっかりと書ける児童が増え、確かな理解ができた。 |

②授業研究全体を通して

成果

- ・ 目的を明確にした「学習課題」は、児童に「考えよう」という意欲をもたせられた。
- ・ 「学習課題」に呼応した視点のある「振り返り」を実施し、児童の「学習課題」達成やそれに向けた努力について具体的に称賛の評価を与えた結果、児童に「分かる」「できる」喜びを感じさせられた。
- ・ 「計算結果」「作文」「付箋に書いた考え」など、伝え合うものを確実にもっていることで、意欲的な伝え合いができた。
伝え合うものは、個々の児童の解決や思考の時間確保と教師の適切な支援により、確実にもつことができた。
- ・ 初めての伝え合い方や伝え合いの停滞時は、説明（音声と掲示物）とモデリングにより活性化した。
- ・ 鉛筆を手にした伝え合いや、よいところに線を引いたり、考えの同じ箇所に印を付けたり、大事な点を書き加えたりすることは、伝え合いの「見える化」となる。思考を働かせながら聞くからこそできる結果であり、考えを深めていくことにつながる。

課題

- ・ 児童の学習状況を把握し、適時に、用意しておいた補助発問やゆさぶり発問をしたり、ヒントカードを見せたり、ペアやグループによる相談場面を取り入れたりするなど指導や支援の力をより高める。
- ・ 「書く・話す・聞く」の連動の有効さはより確かめられたが、「学びを深めた姿」がまだ十分ではない。「学びを深めた姿」を具体化し、それに近付くための手だてを設け、実践する。
- ・ 思考の跡が残る「ノートづくり」について十分に検討できなかった。その指導に関連する板書計画と共に、実践を集積し、効果的な板書やノート指導の工夫をしていく。

(2)学習指導を支える学力向上の取組

成果

- ・ 「話すこと・聞くこと評価シート」の意欲喪失群や不満足群に属する児童は、年間を通して少なく、「話すこと・聞くこと」を楽しんでいる児童が多い。「ペアトーキングで時間いっぱい友達と話せた」と肯定的に評価する児童が95%と高い。
- ・ 過去問題を用いた復習をすることで、児童はWeb問題に安心して取り組めた。定着が十分ではない問題を児童も教師も自覚し、意識して補充学習に努めた。

課題

- ・ 「ペアトーキングで時間いっぱい話せた」と評価する教師は、児童より低い。児童の肯定感と見合うように、テーマ設定や話し方指導の工夫をしていく。
- ・ Web問題を含め、補充学習をするための時間と指導者の確保を図りたい。